

▽ 町連協だより

第 10 号
 平成 14 年 3 月 1 日
 ◆ 発行 ◆
 千歳市町内会
 連絡協議会
 千歳市総合福祉センター
 TEL(0123) 27-2525
 ◆ 印刷 ◆
 道央プリント
 千歳市青葉6丁目1-8
 TEL(0123) 23-5535

「町内会が抱えている課題の 解決に熱心な討議を展開」

平成十三年度町内会役員等 研修会開催される

平成十三年度町内会役員等
 研修会が、平成十三年十月二
 十日福祉センター四階に於て
 開催されました。

今年も各町内会の役員等が
 一同に会し、日頃の町内会活
 動の実践結果を持ちより、貴
 重な意見を交換、提起しなが
 ら、それぞれが抱える諸問題
 の解決に熱心な討議を展開し
 ました。

今年の研修は、共通テーマ
 を昨年と同じ「明るく、楽し
 いふれ合いのある町内活動を
 考える」と題し、各都会共に
 サブテーマを設定しました。
 ★第一分科会(組織研究部会)
 ① コミュニティ協議会と町
 連協活動(通常活動、自主防



災害活動)のあり方について
 質疑応答に入りました。

参加者の中から自主防災に
 ついては、行政からの財政的
 支援もなく単独町内会での組
 織づくりは大変困難であり、
 制度化して行政の支援を受け

なければ防災活動は出来ない
 と言う意見がありました。
 又コミセンの自主防災につ
 いても連絡方法や、資機材の
 確保、所要財源など困難なこ
 とが山積している現状がわか
 りました。

② コミュニティ活動の組織
 はこれで良いか……コミセン
 活動について行政は目を向け
 るが町内会に対してはそれが
 希薄ではないかと言う意見も
 ありましたが、助言者からコ
 ミセンの活動機能を町内会、
 町連協と一体化することは、
 関係する住民の総意に基づい
 て検討すべき問題であり、防
 災活動を含めあらゆる活動の
 基本は、あくまでも町内会で
 ありコミセン主体ではないと
 認識しているとのことでした。

★第二分科会(生活環境部会)
 「花のある町づくりと町内
 会の関わりについて考える」
 平成十三年度「花いっぱい
 コンクール」優秀賞に輝いた

柏陽町内会と富士町内会の実
 例発表があり、それぞれ苦勞
 した事や、花づくりを通して
 町内会全員のコミュニケーション
 が円滑になった事などがあ
 げられました。

又これからは老人クラブだ
 けの花壇づくりではなく町内
 会としても今後フラワーロー
 ドとして取り組みたいと言う
 町内会もありました。



★第三分科会(福祉部会)

「町内会における楽しい福
 祉活動について考える」と題
 して町内会における福祉活動
 の実践報告が二町内会より発
 表され、その後、楽しい福祉
 活動とは何かについて意見交
 換がされました。

参加者から老人クラブと
 町内会活動との整合性を如
 何にするかと言う事が大切
 な問題である。又除雪支援
 活動では、実際は老人が老
 人を支援しているのが町内
 会の現状であるとの姿が浮
 きぼりにされました。

そしてこれからは高齢者
 の一人一人が自分の余生の
 人生設計を立て、物質的な
 もののみを求めるのではな
 く、集まりに参加する事に
 より精神的充実感を得て満
 足して帰る事が出来るよう
 に意識を変える事が必要な
 時期に来ているのではない
 かと助言者より提言があり
 ました。



町内会のご紹介

● 活気ある町内会に向って

青葉丘町内会

会長 藤村 庄司

町内の先輩から、昔を懐かしく語るこんな声が聞こえる。過疎になる以前を染々と時代の推移を顧みる。

当町内会では千歳市内の他町内会に先駆けて昭和四十二年七月に千歳市第一号会館を建設し文化の向上、会員相互の親睦と研修、そして青少年の健全育成の場と極めて幅広く、かつ利用頻度は高かった。

また、町民運動会、盆踊り、子供神輿、ラジオ体操会、レクリエーションに珠算、書道塾、老人会等々と活気に溢れ賑やかでした。

時代と周辺環境は、短期間に著しく変貌した町内会と申し上げるのは、全地域が航空機騒音第二種移転保障対象で住宅等は集団移転、土地は国有地で暖衝植林が施され殺伐としたものでした。

市民としての許容範囲とは

と深く感じます。

現在の町内会は、当時の戸建住宅は激減し、これに変わりワンルームマンションが多く町内会活動や運営に苦慮しているところではあります。

少年高齢化はこの町内会も抱える問題だと存じます。

こんな環境の中にある町内会ですが、町民挙げて真剣に取り組み英知を結集して昔に勝つても劣ることのないような活気のある町内会の発展に



努力している、ほんの一例を紹介させていただきます。



新年親睦会、旅行会の実施
三、ひとりの不幸も見逃さない、住み良い地域づくりとして福祉委員会と町内会の合同主催による事業として会食会(夏・冬)の実施。宿泊親睦旅行会の実施等、支援対策としては、独り暮らし、病弱高齢者世帯の除雪や住宅周囲の清掃の実施等みんなで頑張ろうを合い言葉に活動しております。



一、青少年の健全育成として
三離(家庭・学校・地域離れ)を解消すべく子供神輿・ラジオ体操会・大人とのふれ合いの場の醸成
二、会員相互の親睦として悠喜会(高齢者の集い)お楽しみ会、野外レクリエーション、

● 「隣組」のうた

富丘三丁目南町内会

会長 長谷 勤

私たちの町内会は、今年九月に開院予定の、千歳市立市民病院に隣接する位置にあり、三〇五戸(うち二五〇戸が市営

住宅)の六三七人で構成されています。世帯構成では、一人住まい一二〇戸(うち高齢者六四戸)

二人住まい一〇〇戸(高齢者三六戸)で全体の七二%を占め、一戸平均二・〇九人の少家族集団です。

年齢階級別人口では、老年人口(六五歳以上)は一八一人、高齢者比率は実に二八・四%と全市の二・四倍三・五人に一人の割合です。反面、生産年齢人口(十五~六四歳)は三八四人で六〇・三%、年少人口(十四歳以下)は七二人で一・三%と低く、全市の割合に、それぞれ一〇ポイントと五ポイントも下回っています。

このような状況のもと私たちの町内会では、少年高齢化傾向が年々さらに加速されることとが予想されること、昨年の悲しい経験から、町内会におけるひとりの不幸も見逃さない福祉活動のありかたについて、民生委員と福祉委員会に諮り、無理なく継続できる地道な活動を積み重ねていくこととなりました。その第一歩として、ややもすれば隣近所との会話もなく、引きこもりがちになるひとり暮らし高齢者のみなさんに、年四回を目標に集まっていた

(3)

だき、暮れにはささやかながらお楽しみ忘年会もしました。始めに全員で昭和十五年頃ラジオ放送された「隣組」の



うたを合唱しました。日頃テレビとの会話だけで遠慮しがちな声も次第に大き

くなり終わりには笑顔もでてきました。

「とんとんからりと隣組」ではじまり、一番では「回してちょうだい回覧板」二番では「あれこれ面倒味噌醤油」三番では「地震や雷火事泥棒」

● 子供達の貴重な体験

「じゃがいもづくり」

北斗西町内会

会長 木谷 劭

北斗西町内会は、昭和四十四年一月十二日、五十世帯に満たない会員が集まって池田修三氏を初代会長にむかえて「信栄町内会」として設立されました。

その後住居表示による町名の変更、町内会の名称の変更等により、昭和五十四年四月現在の町内会名になりました。

その後市からの補助金交付により町内会館の更新、街路灯の整備等を行って来ました。

町内会活動につきましては、千歳市社会福祉協議会、千歳市町内会連絡協議会の提唱による「小地域福祉ネットワーク活動事業」に参画し、町内

所帯、心は一つの屋根の月」とうたっています。

今、町内会でなくした最も大切なもの「隣組意識」を、六十年前のこのうたが思い返してくれました。次の「集い」でも、このうたをみんなで合唱したいと思っています。



の時代をむかえて、ひとり暮らしの高齢者の方を招待しての「食事会」「除雪支援」「おせち料理の配食」等町内会行事を通じての三世代の交流等、地域でできる事業に前向きに取り組んでいます。

町内にある「すみれ公園」の維持管理も市緑化協会の委託を受けて実施しています。

昨年は町内会初の試みとして青少年部(小学生三十名が町内広場の片隅を利用して「じゃがいも」作りを実施しました。

畑おこし、種いもまき、除草、薬剤散布、秋の収穫等小学生には実に良い体験をしたと思っています。

約八十キロの収穫がありました。変ご苦労してもらいました。収穫された「じゃがいも」は婦人部の人達に支援をしてもらいカレーライスを作り、高齢者の方を招待し短い時間ではありましたが楽しい食事の会を過す事が出来ました。



昨年十一月町内の空き地を利用して雪捨場を六か所設けました。暮れの十二月十日、十一日の大雪の時は大変役に立ちました。

これからも、町内の各施設の充実を計り環境の整備や福祉の問題、そして青少年の



健全な育成等、私達のできる諸活動を進め「明るく、住みよい町内会」づくりをしたいと思います。

● 元気よく「火の用心」 子供達の防火夜回り

柏陽町内会

会 長 山 口 正 義

町内の年度は4月で変わりますが、一年の行事は一月初めの書初会で始まり十二月末の防火夜回りで終わります。平成十三年も例年どおり今年最後の行事、夜回りを十二月二十八日行ないました。



午後六時三十分会館に集合、厳しい寒さと多忙な時期にもかかわらず子供父母・役員約三十人程と消防署より婦人署



員の参加を得て実施しました。出発前に子供達を二グループに分けて一・二丁目コースと三・四・五丁目コースを別々に巡回、「火の用心」と大きな声のかけ声とともに拍子木を打ち鳴らしながら元気よく各コースをねり歩きました。子供達の大きな声に思わずベランダの戸を開けて表を見る家庭もある程で寒さを吹飛ばす勢いの元気でまわり約四十分程で終わりました。終了後は、会館内で役員の方達に用意していただいたお

しるこを食べながら、夜回りの話で盛り上がりました。お餅の好きな子供はおかわりをし甘いものが苦手な子供は半分だけ食べたりでしたが、寒くて辛い夜回りでしたが楽しい思い出が出来たと思います。来年度も行う予定なので

新年を迎え各町内会の

更なる飛躍を誓い合う

「町内会長等新年交礼会」開催される

平成十四年一月十六日ホテルアネックスに於て町内

会長等新年交礼会が開催されました。

千歳市長代理及び各関係機関来賓出席のもと宮尾力町連協会長より厳しい経済状況の中、町連協のスローガンである「明るく楽しいふれ合いのある町づくり」を基として本年も英知と勇気を持って前進することを誓い、各関係機関により一層のご理解ご支援をお願い致しました。

続いて市長代理の野元和光企画部長が来賓を代表して祝辞を述べられ、梅尾要一市議会議長の音頭で祝盃

「又来てね」の声に、子供たちは「はい」と、元気な声で答えてくれ、今年最後の行事も無事終了しました。また来年も子供達の楽しい思い出となるような行事をこれから企画して行こうと考えています。

を上げ新年交礼会が開催されました。

和やかな雰囲気の中でそれぞれが、新年を迎えての新たな飛躍を胸に和気あいあいと歓談し、新春の一ときを過ぎました。



最後に矢島社会福祉協議会会長の乾杯の音頭で新年の門出を祝い、新年交礼会を終りました。

編集後記



昨年の師走は大寒波の襲来で今冬の厳しさを予感させるものでありましたが、寒に入ってから、早春を思わせるような暖かさが続き、例年とは違う一年になりそうな年明けとなりました。

町内会の紹介もこの号で全市内の1/4となり、それぞれの町内会の特色を生かしたユニークな活動が紹介され大いに参考になったと思います。年二会の発行ですが、これからも内容の充実を図り少しでも各町内会のお役に立ちたいと総務部会一同研鑽を重ねて参ります。

編集委員

- 鳴海二郎 水野敏和
- 籾山裕之 高橋英三
- 蔭 唯男 毛利敏雄
- 伊藤栄太郎
- ★事務局 豊満昌治